

作成日：2025/02/28
改訂日：YYYY/YY/YY

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称、品番：補修用パテ ピュアホワイト

供給者の会社名称：パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社

住所：大阪府門真市大字門真 1048 番地

電話番号：06-6908-6563（水廻りシステム事業部）

項目 2 以降については別添参照

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:

製品名称: 補修用 パテ ピュアホワイト 床用

製品番号 (SDS NO): 5101733-1

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途: FRP成形用材料

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称: 公進ケミカル株式会社

住所: 静岡県浜松市浜名区中瀬8310番地

担当部署: 技術部

電話番号: 053(588)5541

FAX: 053(588)2886

緊急連絡先電話: 053(588)5541

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体: 区分 3

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性: 区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分 2

呼吸器感作性: 区分 1

皮膚感作性: 区分 1

生殖細胞変異原性: 区分 2

発がん性: 区分 1B

生殖毒性: 区分 1B

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分 1

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分 1

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性): 区分 2

水生環境有害性 長期(慢性): 区分 3

GHSラベル要素



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気

皮膚刺激

強い眼刺激

吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

遺伝性疾患のおそれの疑い

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

臓器の障害

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

水生生物に毒性

長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

安全対策

環境への放出を避けること。

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

火災の場合：指定された消火剤を使用すること。

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。

貯蔵

換気の良い場所で保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

燃えやすい液体である。蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	化学式
スチレン	20	100-42-5	3-4	C ₈ H ₈
不飽和ポリエステル	20 - 30	非公開	非公開	-
2-エチルヘキサン酸コバルト(II)	< 1	136-52-7	2-615	C ₁₆ H ₃₀ CoO ₄
二酸化チタン	10	13463-67-7	1-558; 5-5225	O ₂ Ti
水酸化アルミニウム	< 1	21645-51-2	1-17	AlH ₃ O ₃
炭酸カルシウム	10 - 20	471-34-1	1-122	CCaO ₃
タルク; 滑石	20 - 30	14807-96-6	-	H ₂ O ₁₂ Mg ₃ Si ₄

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水/適切な薬剤で洗うこと。

皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合：医師の診察/手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂を使用すること。

使ってはならない消火剤

噴流水を消火に用いてはならない。

特有の危険有害性

燃焼の際に有毒な炭素酸化物を生成する。

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

火災の場合：区域から退避させ、爆発の危険性があるため、離れた距離から消火すること。指定された消火剤を使用すること。

安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外は近づけない。

回収が終わるまで十分な換気を行う。

適切な保護具を着用する。

風上から作業し、風下の人を退避させる。

環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。

乾燥した土、砂、不燃材料に吸収もしくは覆って容器に移す。

二次災害の防止策

安全に対処できるならば漏えい(洩)を止めること。

全ての発火源を取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を接地しアースをとること。

防爆型の電気機器/換気装置/照明機器/その他機器を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する措置を講ずること。

安全取扱注意事項

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

保管

安全な保管条件

容器を密閉しておくこと。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理指標

管理濃度及び濃度基準値

(スチレン)

作業環境評価基準 20ppm

許容濃度

(スチレン)

日本産衛学会(2022) 10ppm; 42.6mg/m³ (皮)

(2-エチルヘキサン酸コバルト(II))

日本産衛学会(1992) 0.05mg-Co/m³

(二酸化チタン)

日本産衛学会(2022) 1.5mg/m³ (吸入性粉塵); 2mg/m³ (総粉塵)

(タルク; 滑石)

日本産衛学会(2023) (石綿繊維、結晶質シリカを含まず) 1mg/m³ (吸入性粉塵); 4mg/m³ (総粉塵)

(スチレン)

ACGIH(2020) TWA: 10ppm;

STEL: 20ppm (中枢神経系及び聴覚障害; 上気道刺激; 末梢神経障害; 視覚障害)

(二酸化チタン)

ACGIH(2021) TWA: 2.5mg/m³(R) (下気道刺激; じん肺症)

(水酸化アルミニウム)

ACGIH(2008) TWA: (非溶性化合物) 1mg-Al/m³(R) (じん肺症、下気道刺激、神経毒性)

(タルク; 滑石)

ACGIH(2010) TWA: 2mg/m³(E,R) (肺線維症; 肺機能) (アスベストを含まないもの)

TWA: 0.1f/cc(F) (じん肺; 肺がん; 中皮腫) (アスベストを含むもの)

[ACGIH] 特記事項

(スチレン)

聴力障害

OSHA-PEL

(タルク; 滑石)

TWA: 20mppcf

(スチレン)

TWA: 100ppm; STEL: C 200ppm

Acceptable maximum peak: 600ppm; Maximum Duration: 5min in any 3 hr

(二酸化チタン)

TWA: 15mg/m³

NIOSH-REL

(二酸化チタン)

Ca(ultrafine particles); TWA: 2.4 mg/m³ (fine);

TWA: 0.3 mg/m³ (ultrafine);

See Appendix A; See NIOSH Intelligence Bulletin 63

(タルク; 滑石)

TWA: 2mg/m³ (Respirable dust)

(スチレン)

TWA: 50ppm; STEL: 100ppm

California proposition 65

発がん性 NSRL

(スチレン)

NSRL=27 μg/day

ばく露防止

保護具

呼吸用保護具

換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：粘稠液体

色：着色

臭い：スチレン臭

融点/凝固点：-30.6℃

沸点又は初留点：(スチレン)145℃

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：

爆発下限：0.9 vol %

爆発上限：6.8 vol %

引火点：(スチレン)31℃

自然発火点：(スチレン)490℃

溶解度：

水に対する溶解度：0.03 g/100 ml (20℃)

n-オクタノール/水分配係数：log Pow3

蒸気圧：0.67 kPa (20℃)

相対ガス密度(空気=1)：3.6

20℃での蒸気/空気-混合物の相対密度(空気=1): 1.02

10. 安定性及び反応性

化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

危険有害反応可能性

熱、過酸化物との接触により重合反応を起こして発熱する。

避けるべき条件

高温、加熱、直射日光

混触危険物質

強塩基、強酸化性物質、強還元性物質

過酸化物

危険有害な分解生成物

炭素酸化物

11. 有害性情報

毒性学的影響に関する情報

急性毒性

急性毒性(経口)

[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠]

急性毒性(経口)の区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

rat LD50=2650mg/kg (MOE初期評価第13巻, 2015)

(二酸化チタン)

rat LD50 >5000mg/kg (SIDS, 2015)

急性毒性(経皮)

[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠]

急性毒性(経皮)の区分を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(二酸化チタン)

hamster LD50>10000mg/kg (HSDB, Access on May 2016)

急性毒性(吸入)

[成分情報を用い加算式を適用した分類根拠]

区分4に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分4に分類される成分の含有量合計 = 19.931%

本製品の急性毒性(吸入)の推定値ATE_{mix}は、以下の式に従って決定される。

$$(100/ATE_{mix}) = (区分1に分類される成分の含有量合計/区分1のATE) + (区分2に分類される成分の含有量合計/区分2のATE) + (区分3に分類される成分の含有量合計/区分3のATE) + (区分4に分類される成分の含有量合計/区分4のATE)$$

$$(100/ATE_{mix}) = (区分1に分類される成分の含有量合計/(0.05mg/L)) + (区分2に分類される成分の含有量合計/(0.5mg/L)) + (区分3に分類される成分の含有量合計/(3mg/L)) + (区分4に分類される成分の含有量合計/(11mg/L))$$

本式をATE_{mix}について解くと、ATE_{mix} = 55.19(mg/L)

10.0 < 区分4 ≤ 20.0 の範囲を超えるため、区分に該当しない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

vapor: rat LC50=2770ppm/4hr (ACGIH 7th, 2020) < 飽和蒸気圧濃度(8422ppm)の90%
(二酸化チタン)
dust: rat LC50 >5.09mg/L (SIDS, 2015)
[CLP規則 附属書VI 表3]
(スチレン)
区分 4

労働基準法: 疾病化学物質

スチレン; 2-エチルヘキサン酸コバルト(II)

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[製品]

区分 2, 皮膚刺激

[成分情報を用い加成分方式を適用した分類根拠]

皮膚区分2 に分類される成分

スチレン(19.931%)

皮膚区分2 に分類される成分の含有量合計 = 19.931%

(10 × 皮膚区分1) + 皮膚区分2 ≥ 10% であるため、皮膚区分2に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

刺激性 (MOE初期評価第13巻, 2015; HSDB, Access on August 2020) et al.

[CLP規則 附属書VI 表3]

(スチレン)

区分 2

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 2, 強い眼刺激

[成分情報を用い加成分方式を適用した分類根拠]

眼区分2A に分類される成分

スチレン(19.931%)

眼区分2/2A/2B に分類される成分の含有量合計 = 19.931%

10 × (皮膚区分1 + 眼区分1) + 眼区分2 ≥ 10% であるため、眼区分2に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

刺激性 (MOE初期評価第13巻, 2015) et al.

[CLP規則 附属書VI 表3]

(スチレン)

区分 2

呼吸器感作性又は皮膚感作性

感作性 [厚労省局長通達]

2-エチルヘキサン酸コバルト(II)

呼吸器感作性

[製品]

区分 1, 吸入するとアレルギー、喘息または、呼吸困難を起こすおそれ

[成分情報を用いた分類根拠]

区分1A に分類される成分

2-エチルヘキサン酸コバルト(II)(0.303%)

区分1A ≥ 0.1%であるため、区分1に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(2-エチルヘキサン酸コバルト(II))

cat. 1A; 産衛学会勧告, 2016

皮膚感作性

[製品]

区分 1, アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

[成分情報を用いた分類根拠]

区分1A に分類される成分

2-エチルヘキサン酸コバルト(II)(0.303%)

区分1A $\geq 0.1\%$ であるため、区分1に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(2-エチルヘキサン酸コバルト(II))

cat. 1A; 産衛学会勧告, 2016

生殖細胞変異原性

[製品]

区分 2, 遺伝性疾患のおそれの疑い

[成分情報を用いた分類根拠]

区分2 に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分2 $\geq 1\%$ であるため、区分2に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

cat. 2; ATSDR, 2010 et al.

発がん性

[製品]

区分 1B, 発がんのおそれ

[成分情報を用いた分類根拠]

区分1B に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分2 に分類される成分

2-エチルヘキサン酸コバルト(II)(0.303%); 二酸化チタン(10.307%)

区分1B $\geq 0.1\%$ であるため、区分1Bに分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

cat.1B; IARC Gr. 2A (IARC 121, 2019)

(2-エチルヘキサン酸コバルト(II))

cat.2; IARC Gr. 2B (IARC 52, 1991 et al.)

(二酸化チタン)

cat.2; IARC Gr. 2B (IARC 93, 2010 et al.)

[IARC]

(スチレン)

Group 2A : ヒトに対しておそらく発がん性がある

(2-エチルヘキサン酸コバルト(II))

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(二酸化チタン)

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない

(タルク; 滑石)

Group 2B : ヒトに対して発がん性があるかもしれない (Talc-based body powder (perineal use of))

Group 3 : ヒトに対する発がん性については分類できない (Talc, not containing asbestiform fibres)

[ACGIH]

(スチレン)

A3(2020): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(二酸化チタン)

A3(as Finescale particles)(2021): 確認された動物発がん性因子であるが、ヒトとの関連は不明

(水酸化アルミニウム)

A4(2008): ヒト発がん性因子として分類できない

(タルク; 滑石)

A1(2010): 確認されたヒト発がん性因子 (アスベストを含むもの)

A4(2010): ヒト発がん性因子として分類できない (アスベストを含まないもの)

[日本産衛学会]

(スチレン)

第2群A: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

(2-エチルヘキサン酸コバルト(II))

第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

(二酸化チタン)

第2群B: ヒトに対しておそらく発がん性があると判断できる物質

(タルク; 滑石)

第1群: ヒトに対して発がん性があると判断できる物質

[NTP]

(スチレン)

RAHC: ヒト発がん性があると合理的に予測される物質

生殖毒性

[製品]

区分 1B, 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

[生殖毒性: 成分データを用いた分類根拠]

区分1B に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分1B $\geq$ 0.3% であるため、区分1Bに分類した。

[授乳に対する又は授乳を介した影響(追加区分): 成分データを用いた分類根拠]

授乳影響を有する成分を含まないため、区分に該当しない/分類できない。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

cat. 1B; 産衛学会許容濃度の提案理由, 2015 et al.

[CLP規則 附属書VI 表3]

(スチレン)

区分 2

催奇形性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[製品]

区分 1, 臓器の障害

[成分情報を用いた分類根拠]

区分1 に分類される成分

タルク; 滑石(29.43%); スチレン(19.931%)

区分3 (気道刺激性) に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分3 (麻酔作用) に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分1 $\geq$ 10%であるため、区分1に分類した。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)区分1、区分2の標的臓器に呼吸器系が指定されているため、区分3 (気道刺激性) に該当しない。

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

中枢神経系 (ACGIH 7th, 2020)

(タルク; 滑石)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2010)

[区分3(気道刺激性)]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

気道刺激性 (MOE初期評価第13巻, 2015)

[区分3(麻酔作用)]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

麻酔作用 (MOE初期評価第13巻, 2015)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[製品]

区分 1, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

[成分情報を用いた分類根拠]

区分1 に分類される成分

スチレン(19.931%); 二酸化チタン(10.307%); タルク; 滑石(29.43%)

区分1 >= 10%であるため、区分1に分類した。

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

聴覚器、肝臓、中枢神経系、末梢神経系、視覚器、呼吸器 (ACGIH 7th, 2020)

(二酸化チタン)

呼吸器 (SIDS, 2015)

(タルク; 滑石)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2010)

[CLP規則 附属書VI 表3]

(スチレン)

聴覚器官

誤えん有害性

[成分情報を用いた分類根拠]

区分1 に分類される成分

スチレン(19.931%)

誤えん有害性の分類基準に該当しないため、区分に該当しない。

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

cat. 1; hydrocarbon, kinematic viscosity =0.772 mm²/s (25°C) (計算値) (粘性率 : 0.696 mPa·s (25°C), 密度 : 0.9016 g/cm³ (25°C)) (HSDB, Access on August 2020)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[製品]

区分 2, 水生生物に毒性

区分 3, 長期継続的影響によって水生生物に有害

[成分情報を用い加算法を適用した分類根拠 短期(急性)]

区分1 に分類される成分、および各々の毒性乗率M

スチレン(M=1)(19.931%)

(M x 区分1 に分類される成分の含有量)の合計 = 19.931%

(M X 10 x 区分1) + 区分2 >= 25% であるため、区分2に分類した。

[成分情報を用い加算法を適用した分類根拠 長期(慢性)]

区分2 に分類される成分

スチレン(19.931%)

区分4 に分類される成分

二酸化チタン(10.307%)

区分2 に分類される成分の含有量合計 = 19.931%

区分4 に分類される成分の含有量合計 = 10.307%

区分1 + 区分2 + 区分3 + 区分4の含有量合計 = 30.238%

(M X 100 x 区分1) + (10 x 区分2) + 区分3 >= 25% であるため、区分3に分類した。

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

藻類(Pseudokirchneriella subcapitata) EC50=0.72mg/L/96hr (環境省リスク評価第13巻, 2015)

(二酸化チタン)

甲殻類(オオミジンコ) EL50 > 100mg/L/48hr (SIDS, 2015)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(スチレン)

藻類(Pseudokirchneriella subcapitata) NOEC=0.063mg/L/96hr (環境省リスク評価第13巻, 2015)

水溶解度

(スチレン)

0.03 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2006)

(二酸化チタン)

溶けない (ICSC, 2002)

(水酸化アルミニウム)

溶けない (ICSC, 1998)

(炭酸カルシウム)

非常に溶けにくい (14 mg/l, 25°C) (ICSC, 2012)

(タルク; 滑石)

溶けない (ICSC, 2012)

残留性・分解性

[成分データ]

(スチレン)

急速分解性あり (BOD分解度 : 100%/14 days; GC分解度 : 100%/14 days (通産省公報, 1979))

生体蓄積性

[成分データ]

(スチレン)

log Kow=2.95 (PHYSPROP DB, 2009)

土壤中の移動性

土壤中の移動性データなし

他の有害影響

オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

廃棄物の処理方法

環境への放出を避けること。

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 1263

正式輸送名 :

塗料 (ペイント、ラッカー、エナメル、ステイン、シェラック、ワニス、ポリッシュ、液体フィルター、液体ラッカー系を含む) 又は塗料関連材料 (ペイント希釈剤又は還元化合物を含む)

分類または区分 : 3

容器等級 : III

指針番号: 128

特別規定番号 : 163; 223; 367

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 1263

正式輸送名 :

塗料 (ペイント、ラッカー、エナメル、ステイン、シェラック、ワニス、ポリッシュ、液体フィルター、液体ラッカー系を含む) 又は塗料関連材料 (ペイント希釈剤又は還元化合物を含む)

分類または区分 : 3

容器等級 : III

特別規定番号 : 163; 223; 367; 955

IATA (航空危険物規則書)

国連番号またはID番号 : 1263

正式輸送名 :

塗料 (ペイント、ラッカー、エナメル、ステイン、シェラック、ワニス、ポリッシュ、液体フィルター、液体ラッカー系を含む) 又は塗料関連材料 (ペイント希釈剤又は還元化合物を含む)

分類または区分 : 3

危険性ラベル : Flamm.liquid

容器等級 : III

特別規定番号 : A3; A72; A192

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当) : 非該当

特別の安全対策

特別の安全対策データなし

MARPOL条約附属書V - HME(海洋環境に有害)

発がん性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

スチレン

生殖毒性: 区分1, 1A, 1B 該当物質

スチレン

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質

スチレン; 二酸化チタン; タルク; 滑石

水生環境有害性: 短期(急性) 区分1 該当物質

スチレン

水生環境有害性: 長期(慢性) 区分1, 2 該当物質

スチレン

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

引火性液体類 分類3

航空法

引火性液体 分類3

15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則 特定化学物質 第2類 特別有機溶剤等

スチレン

特化則 第38条の8 第2種有機溶剤等 (有機則準用)

有機則に該当しない

粉じん障害防止規則 (令19号)

二酸化チタン; タルク; 滑石

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

スチレン(別表第9の323); 2-エチルヘキサン酸コバルト(II)(別表第9の172); 二酸化チタン(別表第9の191)

名称通知危険/有害物

スチレン(別表第9の323); 2-エチルヘキサン酸コバルト(II)(別表第9の172); 二酸化チタン(別表第9の191)

別表第1 危険物 (第1条、第6条、第9条の3関係)

危険物・引火性の物 (30°C ≤ 引火点 < 65°C)

健康障害防止指針公表物質 (法第28条第3項)

スチレン

化学物質管理促進(PRTR)法

第1種指定化学物質

スチレン(20%)[スチレン(管理番号240)]

消防法

危険物

第2類 可燃性固体 危険等級 II (指定数量 100kg)

第4類 引火性液体第2石油類 危険等級 III (指定数量 1,000L)

化審法

優先評価化学物質

スチレン(通し番号47 人健康影響/生態影響)

じん肺法

二酸化チタン; タルク; 滑石

悪臭防止法

スチレン

政令番号17: 敷地境界線許容限度 0.4 - 2 ppm

大気汚染防止法

有害大気汚染物質

スチレン(中環審第9次答申の111)

2-エチルヘキサン酸コバルト(II)(中環審第9次答申の60)

海洋汚染防止法

施行令 第1条

有害液体物質 Y類物質 (第1条の2 別表第1)

スチレン

有害液体物質 Z類物質 (第1条の2 別表第1)

二酸化チタン

有害でない物質 (第1条の3 別表第1の2)

炭酸カルシウム

水質汚濁防止法

指定物質

スチレン

法令番号 27

水酸化アルミニウム

法令番号 44

米国 有害物質規制法 (TSCA) インベントリ

TSCAインベントリ収載化学物質

スチレン; 2-エチルヘキサン酸コバルト(II); 炭酸カルシウム; 二酸化チタン; タルク; 滑石;

水酸化アルミニウム

この製品は、SARA Title III、Section313で定められた報告レベルの対象となる化学物質は含んでいません。

California proposition 65

警告:この製品は、カリフォルニア州で癌を引き起こすことが知られている化学物質、及び/又はカリフォルニア州で先天性欠損症またはその他の生殖障害を引き起こすことが知られている化学物質にさらされる可能性があります。

詳細についてはこちらを参照ください。www.P65Warnings.ca.gov.

Cancer

スチレン (発がん性)

タルク; 滑石 (発がん性 (アズベスト含有タルク))

二酸化チタン (発がん性 (呼吸されうる大きさの空気中に浮遊 する自由微粒子))

化学安全性評価

本製品の化学安全性評価は行なわれていない。

16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 22nd edit., 2021 UN

IMDG Code, 2022 Edition (Incorporating Amendment 41-22)

IATA 航空危険物規則書 第65版 (2024年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2024 TLVs and BEIs. (ACGIH)

Supplier's data/information